# 「オーディオ英語」の現状と課題

西納春雄・山本　妙・田口哲也

## 0. はじめに

筆者ら三名は，リスニング指導英語教科書，*From English to Englishes: Drills for Listening Comprehension* を1993年度に編纂した。この教科書は，1994，95年度に同志社大学の学部二年次生（英文学科を除く）対象の「オーディオ英語」[1]科目で，統一教科書として使用された。教科書編纂にあたっては，それまでの英語科のリスニング用教科書編纂の伝統を取り入れ，かつ時代に即した新機軸を打ち出そうと試みた。この教科書が学習者にどのように受容されたかを知るために，94年度末と95年度末に科目登録学生を対象にアンケート調査を行った。担当教員の協力により，有効回答数はいずれも500（履修学生約800名）を上回る大規模なアンケート結果が集積された。小論では，まず同志社大学の「オーディオ英語」科目におけるこれまでの教科書編纂の足跡と，編纂された教科書の内容を検討し，リスニング用教科書のあり方を考察する。次に筆者らの編纂した教科書の受容を分析し，今後の「オーディオ英語」クラスにおける課題を指摘する。

## 1. 「オーディオ英語」の沿革

同志社大学の「オーディオ英語」教育は，大学において視聴覚機器を使用した語学授業として最も早く着手された試みの一つである。今出川キャンパスに設置された心理学実験授業用教室を視聴覚教室（以下，LL教室）に援用して授業が開始されたのが，今から34年前，1962年4月のことであった。[2]

開講当初はLinguaphoneの教材を使用し，その後しばらく市販教材を利用して授業が行われたが，やがて同志社大学の教員が作成した独自の教材を用いて授業を行うというシステムが始まった。最初に開発された教科書 *English through the Ear* の初版は1969年である。当時は，教科書の前書きにもあるように，英語の授業といえば辞書を片手に講読の教材を読み進むというものが主流であった。相当の難易度の英文が読めて書ける人ですら，話したり聞いたりすることがほとんどできないという，読み書きと聞き話す能力のあいだの不均衡が見られた。この教科書はそのような英語能力のアンバランスを是正するため，耳を通して英語を学ぶことを目的に作られたものであった。[3] その種の教科書のなかでは草分け的なものであったと言えるであろう。

この教科書以降，同志社大学の教員が数人でチームを作り，大学の授業で使うための教科書を開発して，「オーディオ英語」の授業の統一教科書として使うという方式が受け継がれ，数年おきに新たな教科書が作られてきた。当初は英文学科もこの教科書を使用して授業を行い，開発も英文科との共同作業であったが，1977年以降，外国語科目としての「オーディオ英語」の教科書は英語科の教員のみによって作成されている。独自教科書で運営し，専任教員の担当率も高く，履修学生数も多い「オーディオ英語」は，英語科の提供する科目の中で重要な位置を占めてきた。[4]

LL教室は当初今出川校地に1教室あり，その後新町校舎に移設された。さらに1986年に1・2年次生クラスが田辺校地に移転した際には，2教室に増設された。現在の「オーディオ英語」クラスはこの教室を利用して定員を40名とし，毎年20クラス程度運営されており，約800名の学生が履修している。学部2年生の英語として2種類設置されている英語C（イングリッシュ・セミナー）と英語D（イングリッシュ・ワークショップ）のうち，後者の科目群の中から，学生の選択により履修される。

## 2. これまでの教科書

「オーディオ英語」において特徴的なのは，使用する教科書の重要性である。同志社大学では長らくLL教室の機械設備の更新が進まず，ハードウェア的な制約が続いているが，その中で，教科書の内容と構成，そして運用面の工夫によって教育効果を高める試みがなされてきた。[5] 独自教科書を編纂し始めた当初は面白く読める英米のエッセイや物語を題材にあげていた。その後教材は，英米の国民のものの考え方や風習，さらには社会構造を知り，英米の社会文化への知的な解説を加えたものへと変化していった。以下にこれまで編纂された教科書の内容と編集方針を概観する。

(1) *English through the Ear*　『耳からの英語』
1969年1月　英宝社
編著者：松山信直・小林萬冶・金城盛紀
A5版，前書き6ページ，本文101ページ，別冊テキストスクリプト56ページ
Part 1 & Part 2 (22 lessons) + Appendix (Sentences for Further Practice)

(2) *Aural English for College Students*　『オーラル英語教本』
A5版，1972年1月　英宝社
編著者：本間賢史郎・福本一・釜池進
前書き6ページ，本文76ページ，別冊テキストスクリプト42ページ，
別冊 A Manual for Instructors 8ページ
Part 1 & Part 2 (21 lessons) + Pronunciation

(3) *Listining to English*　『リスニング　トゥ　イングリッシュ』
A5版，1975年1月　英宝社
編著者：渥美正平・奥恭子・滝野徳三郎
前書き6ページ，本文84ページ，別冊テキストスクリプト62ページ
Part 1 & Part 2 (21 lessons) + Appendixes (Pronunciation+Sentences for Further Practice)

(4) *Views and Issues — Four Lectures for Listening Comprehension —*　『新聴解システム英語教本』
1977年1月　英潮社新社
編著者：中村春次・岡田妙・宇田佳正
A5版，前書き6ページ，本文157ページ，別冊 Teacher's Book（編著者の解

説・テキストスクリプト・問題解答含む）49ページ，別冊配布資料（Dialogue, Communicative Drills）51ページ
Introduction + 4 Units

(5) *Enjoying America through the Ear*　『エンジョイイング・アメリカ』
1984年1月　英宝社
編著者：有馬輝臣・北尾謙治・北尾キャスリーン・吉岡健一
B5版，前書き6ページ，本文105ページ，別冊Teacher's Manual（編著者の解説・テキストスクリプト・問題解答含む）132ページ
5 Units + Supplement (2 Chapters)

(6) *Aspects of Britain Today — For Listening Comprehension —*『現代英国の諸相』
1988年4月　英潮社新社
編著者：松井進平・能口盾彦・杉野徹
B5版，口絵1ページ，前書き8ページ，本文106ページ，別冊Teacher's Guide（編著者の前書き・テキストスクリプト・問題解答含む）32ページ
5 Units (Supplement含む)

(7) *A Guide to Taking Notes — Life in Britain and in America —*　『楽しいテイキング・ノート』
1990年12月　英宝社
編著者：圓月優子・南井正廣・押本年眞・西條隆雄
B5版，前書き6ページ，本文130ページ，別冊教授用資料（テキストスクリプト・問題解答含む）32ページ
Introduction + 5 Chapters + Appendix

(8) *From English to Englishes: Drills for Listening Comprehension*　『聴解力演習・世界の英語』
1994年11月　英宝社
編著者：西納春雄・山本妙・田口哲也
B5版，前書き8ページ，本文146ページ，別冊Teacher's Manual (前書き・テキストスクリプト・問題解答含む) 37ページ
4 Units + Appendix

## 教科書の変遷

ほぼ30年におよんで出版されてきたこれらの教科書を概観すると，教科書編纂にはある方向性が存在し，各編著者は，新たな教科書編纂に際して，それまでの編集方針と形式を部分的に継承しながら新たな要素を付け加えて

いったことが確認できる。

最初の教科書 (1) で作り上げられた編纂スタイルは, (2), (3) においてもほぼそのまま踏襲されている。Part1を前期に，Part2 を後期に学習するように作成され，一回の授業で 1 lesson ずつ進むように，全体で20～22の lessons が収められている。各 lesson では，約500～600語の，一回で学習し終えられるような比較的短いエッセイや物語風の英文を録音したものを聞かせる。本文は教科書に掲載されず，学習者は録音テープを聞いて，選択肢式や正誤式の Exercises によって内容理解を確かめ，さらに空欄補充や dictation をおこなう。課が進むと，聞いた内容の要約を書かせたり，内容について英語で答えることを要求する設問も設けてある。耳で聞いただけでは理解しにくい語句や固有名詞は各課の Exercises の中で前もって学習できるようになっているので，学習者に Exercises の下調べをしておくことを求めている。また, (1), (2), (3) 全ての教科書に共通して，英語の発音の基礎と日本人にとって難しい発音の問題点を解説した発音篇が設けられている。この発音篇は録音テープにも収録されていて，聞き取りや発音の練習ができるようになっている。(1) と (3) では，Sentences for Further Practice として，本文にあらわれる英語の表現を抜き出して末尾に印刷してあり，学習者が利用できるようにもなっている。

続いて編纂された (4) の教科書 *Views and Issues* において従来のスタイルに大きな変革が見られた。それまでは一回に一課ずつ読み切りで学習するというかたちであった。しかし，この教科書では次のような新たな試みがなされた。

1．書き下ろし教材:それぞれの教材は，ある特定のトピックについての講演である。全てこの教科書のために書き下ろされ，録音されたオリジナルの教材である。

2．複数回で学習：一つの講演は分量が比較的長く，内容も難しいので，一回読み切りでなく，これを三つ程度のパートに分け，数回の授業で学

習する。したがってこの教科書の場合，短い Introduction の後に四つの講演をそれぞれ Unit として収めてある。

3．トピックの工夫：大学の授業で数時間をかけて多角的に学習するということを考え，講演のトピックは，1）長期にわたって英語国民が議論していきそうな重要な話題であり，2）英語国民のものの考え方，社会構造などを反映し，日本人が心得ておくことが望ましい英語国民の側面を解説したもので，3）観光旅行などですぐわかるものでない，知的な解説を要するものであること，などの条件を満たすよう考慮されている。[6]

こうした方針に基づき，以下の講演が教材として使われた。

Introduction: Why Study English?
UNIT 1 The Education System in England
UNIT 2 The Women's Rights Movement in the United States
UNIT 3 A Scotsman on Scotland
UNIT 4 Bilingualism in Canada

従来の教科書と同じく，各講演のスクリプトは教科書本体に収録されていない。長い講演を聞いて理解するために，Exercise だけでなく，Summary や Word List などの様々な listening aids が各 Unit に与えられている。各 Unit の構成は次のとおりである。

Summary: 講演の本文のパラグラフごとの要約
Vocabulary: 難解な語句・重要語句の英語による注
Word List: 本文を聞きながら単語や語句を確認するための単語リスト
Questions: パラグラフごとの大意をつかむための日本語での質問
Phrases: 本文にあらわれる熟語や英語的表現の抜粋
Grammar and Usage: 内容理解のために重要な，文法やイディオムの解説
English as it Sounds（発音解説）: 講演の本文に即した英語の音声上の特徴の解説
Quiz（復習設問）: 最後に内容理解の確認をするための英語での設問
Cumulative Drills（積み上げ練習）: 複雑な構文をもつ長い文を単純な文の要素に分解し，積み上げていって，もとの文を理解するための練習。別刷り。
Dialogues: 本文に関連した話題についての，日本人とネイティヴ・スピーカーとの会話。別刷り。

Summary, Vocabulary, Word List, Questions などは本文に即して三つ程度のパートに分けられているので，学習者は各パートごとに Summary → Vocabulary → Word List と同じパターンの作業を繰り返して，その日の授業で聞く部分の理解を深めていくことができる。このテキスト以降，各課の構成などは多少異なるが，オリジナルな講演（書き下ろしエッセイ）を教材として用い，これを数回の授業で多角的に学習するという方針とスタイルが同志社大学のリスニング用英語教科書で採用されてゆくことになる。また，リスニング教科書の作成にあたっては，大学生の聴解能力の低さと，読解力や知的関心の高さの間にへだたりのあることがこの種の教材作りを難しくさせると考えられるが，[7] ここでは，リスニングのための教材であっても，英語を使用する国々の文化・社会や国民性について新たな情報や知見を与え，大学生の知的レベルにふさわしい内容の教材を使うといった姿勢がはっきりと打ち出されている。この点でも，この教科書は当時のリスニング教科書の中でもきわ立って先進的であったといってよいであろう。この姿勢も，後続の教科書に受け継がれた点である。

次に編纂された教科書 (5) では，米国の文化・社会に関する 5 編のネイティヴ・スピーカーのスピーチ（講演）が教材として使われている。先行教科書と同様に講演の本文は教科書に与えられていない。また，様々な listening aids や Exercise を通して聞いた内容を理解させるという形式は踏襲されているが，Unit の構成はかなり異なっている。すなわち，収録する講演の数を多くし，聞き取り練習のための Exercises に重点を置いた構成をとっている。文法や語句，音声の解説がない分，前著より幾分スリムになっているといえよう。Units の内容は次のとおり。Supplement は，夏休みの宿題や時間的余裕のできたときに使えるようになっている。

Part One
- UNIT 1 San Francisco
- UNIT 2 Football
- UNIT 3 A Pioneer Student in the United States—Joseph Hardy Neesima—

Part two
UNIT 4 Modern American Drama
UNIT 5 The Judicial System in the United States
Supplement
1 Alcatraz
2 Casting and American Movies

また，各課の構成は次のとおりである

Summary: パラグラフごとの内容の要約
Vocabulary: 本文中の難解な語句や重要語句，固有名詞などを挙げ，必要に応じて補注
Exercises: 各パラグラフの内容把握をチェックするための質問
Review: Unit 全体の内容理解を確認するための多角的な練習問題
Listening Practice: 英語を聞き取る上でのポイントの解説と練習
Dialogs: Main speech（講演）と関連のある話題についての対話。教科書にはスクリプトはなく，必要に応じてプリント配布。

続く教科書 (6) は，英国の話題を取りあげている。各課の主題は次のとおり。

| | | |
|---|---|---|
| UNIT 1 | Part 1 | British People and their Pets |
| | Part 2 | How English Sounds |
| UNIT 2 | | Britain as Seen by an American |
| UNIT 3 | Part 1 | The Open University |
| | Part 2 | How English Sounds |
| UNIT 4 | Part 1 | The National Trust |
| | Part 2 | How English Sounds |
| UNIT 5 | Supplement | Christianity in Britain Now |

この教科書でも，大学生の知的レベルにふさわしい内容の英文を聞いて理解させるためにさまざまな手助けの工夫がなされている。ここで特徴的なのは，一つの Unit をいくつかのパートに分割するのではなく，各パラグラフごとに独立した準備作業と練習問題が施され，パラグラフごとに学習を進めるという構成をもっている点である。各課の構成は以下のようになっている。

UNIT 1
Paragraph 1
Preparations: Summary: パラグラフの内容の要約
Words & Phrases: 重要語句を含んだ短文
Notes: 固有名詞，歴史・社会的背景などの日本語による解説
Exercises
Help for Note-taking
Paragraph 2
.
.
.
Aid in Listening

Help for Note-taking は全てのパラグラフについているわけではないが，この教科書で初めて登場した。パラグラフの構成をフローチャート式に示したもので，学習者が聞きながら穴埋めをすることによって，当該パラグラフを聞き取りながらの覚え書きを作らせるよう導く働きをする。各課の最後におかれた Aid in Listening は教科書 (5) の Word List にあたる。また，この教科書では How English Sounds という発音篇が復活しており，英語の音の聞き取りと発音の練習のためのセクションにかなりのページ数が割かれている。

これに続く教科書 (7) では，編集方針にもう一つの転換が見られた。この教科書では特に英語の講義を聞き，その要旨を書き取る，すなわち講義のノートをとって後からその主旨を自分の言葉で再生できるようにすることを目指すということに主眼がおかれている。従って前著の Help for Note-taking のセクション（しかしはるかに学習者が自分で書き取る部分が多い）が教科書の中でもっとも重要な部分となっている。

各課の主題は，英国と米国の文化の一側面を語るという，従来の路線に沿ったものである。内容は次のとおり。

Introduction Taking Notes
Chapter 1 The British Postal System
Chapter 2 The Automobile in the United States
Chapter 3 Invitation to Tea

Chapter 4　The American Fitness Culture
Chapter 5　Education at British Public Schools

各 Chapter はほぼ三つのパート（それぞれが数パラグラフから成る）から成り，次のような構成をもっている。Chapter 1 の (1) を例に取る。

The British Postal System (1)
　Summary
　Key Words for Comprehension: 主に固有名詞やなじみのない語句の，英語による解説
　Words & Phrases: キーワードとなる語句のリスト
　Taking Notes: ノートを取るためのセクション，1ページを使用
　Exercise: 内容についての選択問題と英問英答式の作文問題
　Dialogue 1: 内容に関連した会話で，教科書には本文も印刷されている

Summary, Key Words, Words & Phrases はかなり簡略化されており，Taking Notes が各パートでの作業の中心となる。初めのうちは Taking Notes のページもかなりの部分があらかじめ印刷されていて，空所補充に近いが，課が進むにつれてほとんど自分でノートをとらなければならなくなる。かなり難しい作業である。教授者のデモンストレーションもまじえて，録音テープを繰り返し聞きながら要旨の書き取りをすることが求められている。また，随所に各課の主題に関連する「豆知識」が配置され，学習者の興味を増し，理解の助けとする配慮がなされている。

## 3. 新編纂教科書

1994年度と1995年度に使用され，学年末に実施したアンケートの対象となったのは，上記リスト中の教科書 (8) である。ただし1994年度には簡易印刷の試行版を使用し，翌年に現行教科書の形のものを使用した（これは過去の教科書作りにおいても慣例となっている）。この教科書も，過去の教科書のスタイルや方法を踏襲して構成を決定した。しかし，教材の採取に関しては従来の教科書と異なる試みを行った。

教科書は五つの Units で構成されている。各 Unit は三つのパートに分かれており，各パートはおおよそ次のような構成になっている。

Before Listning　録音テープを聞く前の準備作業
　Preliminary Questions: これから聞く内容に関しての学習者の予備知識をたずねる
　Vocabulary: 内容理解のために必要な語句に英語で語注
　Notes: Vocabulary で補いきれない，さらに詳しい説明（日本語）
Let's Listen　実際に録音テープを聞いて行う作業
　Word List: 単語・語句の確認のためのリスト
　Help for Note-Taking
　Exercise: 正誤問題，選択問題などの設問と，英問英答の作文型の設問，穴埋め式の Dictation の三種

録音テープを聞きながらノートをとらせ，内容を理解させることを目指すという点では，教科書 (7) の路線を踏襲している。ただし，前著に比べるとチャートに初めから書き込まれている部分が多く，その意味では教科書 (6) の Help for Note-taking と (7) の Taking Notes の中間をねらっているといえよう。また，Word List を復活させ，Help for Note-Taking と共に 2 ページの見開きの中にできるだけ収まるように工夫した。これにより，Note-Taking の際に，どうしても手がかりとなる語句が必要な学習者や，音は聞き取れても単語の綴りがわからないという学習者の学習を補助することをねらった。ただ，後のアンケートの集計に見られるように，書き取り作業が楽になったと好評であった反面，助けがありすぎて作業がやさしくなりすぎるという指摘もある（資料 1 ：問 39，40）。

教科書の構成は以上のとおりであるが，教材となる講演の内容の採取に関しては今回は新機軸を打ち出した。従来は，教科書 (4) でカナダやスコットランドを取りあげたのを除けば，英国か米国の社会や文化についての英米のネイティヴ・スピーカーのスピーチを教材としてきた。しかしこの教科書では，英米以外の国々で話されている様々な英語の varaieties に焦点をあて，それらの英語使用国のネイティヴ・スピーカーに，自国の文化，社会と言語の

関わりについて語ってもらった。各 Unit の内容は次のとおりである。

UNIT 1 English Language in Ghana
UNIT 2 Singapore: A Country of Many Languages
UNIT 3 Becoming a Kiwi: Language and Society in New Zealand
UNIT 4 Ireland: Diversity and Richness of Its Language
Appendix The State of many Tongues

UNIT 1 と UNIT 2 はそれぞれガーナ人とシンガポール人のスピーカーが，自国の言語事情を語ったもの。UNIT 3 ではフィリピン出身で現在はニュージーランドで教鞭をとる女性が，自らの Philippine-New Zealander としてのアイデンティティの確立までの過程を英語との関わりを通して語っている。UNIT 4 ではアイルランドでの英語使用の歴史がゲール語の盛衰や英国との交渉などとからめて語られる。Appendix のみオリジナルの講演ではなく，雑誌記事を収録した。世界各国で英語が話されている一方で，米国 Utah 州において，多言語併用状態が出現しているという興味深い状況をレポートした記事である。

筆者らの教科書は，学習者が「英語の現在」を理解できるように，という意図で編纂された。現在国際語となった英語は，その varieties が重視されてきている。[8] いまや英語は，「標準的で」「正統な」英語とその下に位置する方言群との対立図式のうちにとらえられるものではない。言語学者たちの間でも，世界各国ではさまざまな Englishes が話され使われているという認識が主流になっている。[9] 筆者らはこの教科書で，さまざまな国々で話されている英語の varieties に親しむことによって，British English や American English は，もっとも勢力を持つ主要なvariety ではあるが，やはりそうした Englishes, varieties の一つなのだ，という認識を学習者の中にはぐくむ機会を与えようと試みた。

筆者らは，上記の立場を取ることで，英米の英語や文化・社会について学ぶことの意義を否定するものではもちろんない。しかし従来日本の英語教科

書は英米の情報の紹介に終始していた感があり，それ以外の英語に関する情報があまりにも少なかった。現在の英語事情を考えると，「英語の上達のためには英語使用国民のものの考え方を学ばなければならない」という名目で英米の文化・社会ばかりをとりあげるということ自体がすでに実状にあわなくなっているのかもしれない。[10] また，varieties を学ぶことによって，言語はスタティックなものではなく，様々な地域で様々な人々が使うことによって変化するダイナミックなものであり，変化がつけ加わることによって言語自体の力や豊かさも増すという，言語の性格への関心を喚起することにもなる。[11] さらに，各国において英語がどのように使われてきたかを知ることで，ほぼ単一言語国家である日本に住む我々には普段実感できない，言語と歴史・文化・社会との関わり合いといった問題についての注意を喚起することもできると考えた。

こうした趣旨を活かすために，学習者にとっても教授者にとってもなじみの薄い国々をとりあげるので，それらの国々の歴史・文化・社会的背景について，またそれぞれの国の言語事情についての情報を補う「豆知識」をできるだけ豊富に盛り込んだ。またスライド・ビデオなどの副教材も併用した(これは従来行われてきたことであるが)。録音テープの使い方については試行錯誤を重ねた。まず，各国の章を担当してもらったネイティヴ・スピーカーに録音テープの吹き込みを依頼し，授業では主にそれを使い，じかに英語の varieties に触れてもらうことを主眼とした。しかし，語り手が訓練されていないという事情もあり，聞き慣れないと学習しづらいという声も考慮して，英米のネイティヴ・スピーカーによる録音も用意した（学生に配布した録音テープには，録音時間の関係から，英米のスピーカーのものは入れていない Unit もある)。また，初年度では学生に録音テープを与えず，直接教室で聞かせていたが，予習復習の便をはかるために，またクラスごとに進度が異なることも考慮して，95 年度からは教科書と共に録音テープも販売した。

## 4. アンケート結果

この教科書についてのアンケートは，varieties を学習することがどのように学習者に受けとめられ，英語の学習に役立つかについて，また学習者は教科書の構成・スタイルをどのように評価し改善を求めているのか，主にこの二点について調査することを目的として行った。あわせて，従来の「オーディオ英語」の授業のあり方と，授業が抱える問題点があぶり出されるのではないかというもくろみもあった。アンケートは無記名で，学年末の授業時間の一部を利用して行った。巻末の資料には，資料１として，アンケートの質問事項と回答人数と百分率が，資料２には男女別の回答人数と百分率が，資料３には履修の理由（問５）への工学部学生とそれ以外の学部の学生の回答人数と百分率を掲載した。[12]「はい」「いいえ」の回答は，「はい」を５とし，「いいえ」を１とする５段階評価の選択肢によっている。以下の解説においては，特にことわりがない場合には，資料１の当該箇所を参照されたい。

**全般的な事項に関して**

有効回答数は1994年度には579，1995年度には514を得た。アンケート結果は２年間を通じて驚くほど酷似している。有効回答数が多かったため，男女別と学部別の分析を試みた。しかしながら，学部別の分析には，後述するように，工学部学生の履修理由を除いて際だった特徴は発見できなかった（資料１：問５；資料３：問５）。男女別の分析においては，質問項目の中に興味深い差異が見いだされるものがあった（資料２-1；資料２-2）。詳しくは後述する。

**履修学生に関して**

履修学生の所属は全学部にわたっている。学部別の比率は２年間ともほぼ同じであった。94年度には女子学生が履修生の約４分の１であったのに対し，95年においては約３分の１に増加している。授業への出欠席に関しては，90%以上の学生が単位取得に必要な出席を確保している。また，授業への取

り組みは真剣であると自己評価するものが圧倒的である。この回答は特に女子学生に多い。

**履修の動機に関して**

第一の理由の一位から四位は，94・95年度とも同じで，1：「オーディオ英語」を履修したかった，2：時間割の都合，3：英語力がつくと思ったから，4：先生がよいと聞いたから，となっている。

第二位の理由の一位から四位は，1：時間割の都合（94・95共通），2：英語力がつくと思ったから（94），「オーディオ英語」を履修したかった（95），3：「オーディオ英語」を履修したかった（94），英語力がつくと思ったから（95），4：先生がよいと聞いたから（94・95共通），となっている。

時間割の都合を優先させることでは学部間に差がある。この傾向は特に工学部に顕著で，94・95年度を通して工学部所属学生の第一理由（資料3：94年度35%（工以外19%），95年度33%，（工以外26%））であった。工学部学生の時間割が，実験実習などの科目の時間割に圧迫され，自由な科目選択ができにくいことは従来しばしば指摘されてきたことであるが，数字の上でこれが裏付けられた。

教科書の内容を履修の理由にあげたものは，両年度，男女通じて，残念ながら極めて少なかった（94・95年度ともに0%）。

男女別に見ると，95年度の女子が，高い率で時間割の都合を優先させたことがわかる（資料2-2：問5，第一理由30%，第二理由36%）。この傾向が出た原因は推測できない。

「その他」を選択した学生の自由記述では，登録の際の抽選漏れを理由にあげるものが圧倒的に多く，英語のリスニングに関心があるという2位以下を大きく離している。概観すると，科目履修の動機には積極的な要素と消極的な要素が相半ばする。しかし，履修の満足度は全般的に高い（問6）。

**教科書に関して**

学生は高い率で教科書の内容に関心を示し（問7），英語の varieties を学

習するという趣旨に賛同しており（問８），授業の過程で非常に多くの学生が，アメリカ・イギリス以外に英語を使用する国々があることを実感している（問９）。本教科書の編集の意図は正確に学習者に理解され，賛同を得ていると言えよう。問39の自由記述部分の感想においても，多数の学生が英語のvarietiesを扱ったことへの共感と，英語の世界的な広がりを知って，新鮮な驚きを表明している。また，それまで意識にのぼらなかった国々の文化，歴史，言語事情に強い関心を示していることが読みとれる。教科書の内容は学習者にとって十分に知的刺激を与えるものであったということができよう。

しかしながら，教科書の主旨への理解が高いのに反して，英語をよく聞けるようになったと感じているものの率は多くない（問13）。これには様々な要因が考えられる。学生自身の地道な努力があったかどうかは不問に付すとして，聴解力の向上には，教科書の内容のみでなく，授業回数や運営方法，設備などの影響や制限も考えられる。また，複数の学生が自由記述部分で指摘しているように，難度の高い英文を用いて内容の理解を求めると，必ずしもヒアリング能力を高める教材とはなりにくいことも考えられる。前述したように同志社大学の英語リスニング用テキストでは，充実した内容の英文を理解させる路線をとってきている。その際には同時に，より多くの英文を効果的に聞かせる工夫が必要であるが，筆者らの教科書においては，この部分が若干不足していたと感じている。[13]

問15への回答で特徴的に示されているのは，耳から聴取する英語を特に難しいと感じ，よりやさしい教材を求める学生の集団が，年度を通じて存在していることである。これは男子に多く女子に少ない（資料２-1：問15，94年度男33%，女20%；95年度男39%，女28%）。この集団は年度を通じて履修者の中に一定割合存在し，アンケート結果はこの項目のみ特殊な分布を形成している。このような学習者たちへの対処法は今後の課題である。

**聞き取りに関して・教科書の構成に関して**

両年度を通じてほぼ同じ割合（約70%）の学生が，聞き取りながらノート

を取ることを難しいと感じている。この傾向は特に男子学生に顕著である（資料２-1：問20，94年度男75%，女61%；95年度男73%，女57%）。

またこれと関連していると思われるが，教科書の構成が学習に役立ったか否かを問うた問24から問38のうち，特に問30，31，35，37において，両年度に共通して，教科書の評価が男子学生と女子学生で大きく分かれた。女子学生の多くは，Vocabulary, Word List が内容理解のために役立ち，Vocabulary と Help for Note-Taking が聞き取りに役立っていると感じたのに対して，男子学生の評価は，女子の評価をそれぞれ10%以上下回る。

全般的に見て，性別による授業の評価においては，女子学生の積極的な態度が印象的である。女子学生の方が，授業にまじめに取り組んだと自己を評価し，教科書や授業に対する評価も肯定的である。英語のヒアリング学習をさほど難しいとは考えておらず，教科書を有効に利用して聞き取り学習をこなしている様子がデータから読みとれる。

**アンケート自由記述部分**

アンケートの自由記述部分，教科書の長所短所についての回答では，上述したように，英語の varieties を学習したことへの好意的な感想が多かった。それと同時に英米の英語も varieties として題材に取り上げてほしいという要求もあった。教科書の構成部分については，先行教科書を踏襲した Help for Note-Taking や Word List の形式が好評であった。一方で，Help for Note-Taking については，内容や構成をよりわかりやすくするように，との改善への要求も多かった。Word List に関しては，Unit によっては，Note-Taking のヒントになる部分が多すぎるという声がある（問40）。このような学習者からの不満は，ある程度難度のある教材を学習することで，リスニングの力を向上させたいという学習者の要求の現れであろう。他方，さらにやさしくするために Word List を多くする事を望む要求もあった（問40）。この例に見るように，改善の提案には相反する内容を含むものも多い。これは，Unit ごとの Help for Note-Taking の難易度に若干の差があったこと，Help for Note-Taking

に記述する情報の密度が異なったり，書き込みのために用意した空所の位置が学習者の予測と一致しない点が若干あったことも原因として考えられる。

Note-Takingという書き込み式の指導法には肯定的な評価が多い。これと関連して興味深いのは教科書のサイズへの反応で，94年度に試行教科書（A4版）を用いた際には，教科書のサイズが大きすぎるという不満を持つ学生が多かった一方で，書き込みスペースの広さに満足したものも多かった。95年度に市販教科書（B5版）となったときには教科書のサイズへの不満は解消されたが，書き込みのスペースが少ないという不満を持つものが多かった。市販教科書としてはＡ４版は採用されにくく，教科書のサイズを小さくした際に，レイアウトの変更を余儀なくされた。このことが95年度の学生からの，Help for Note-Taking改善の要求として反映しているようである（問40）。

教科書の他の構成部分では，取り上げた国の歴史や文化を囲みコラム風にまとめた「豆知識」が好評であり，さらに分量を増やすようにとの要求も多い。教科書の内容を補い，単調さに変化をつける役割を果たしたようである。

聞き取りに関する指摘では，本文のスクリプトと録音テープを求める声が多かった。このうち録音テープに関しては，95年度から授業開始時に学生に配布するようにした。他方，録音テープのない環境がリスニングへの集中度を増す，と肯定的に評価するものもあった。94年度に録音テープの音質に関する苦情が多いのは，海外在住のネイティブ・スピーカーに録音を依頼した場合に機材が十分に整わず，かつ編集者が同席できない環境で音声が採取された場合があり，背後の騒音，録音レベルの低さ，抑揚の調節等ができなかったという事実から発生しているためで，これは95年度までに，再録音と編集を繰り返して，ある程度改善できた。しかし，今後も教材を広く求める際には避けられない問題であろう。

varieties を聞くことに関しては，英米語以外の varieties を学ぶことに賛同しつつも，やはり英米英語の標準的な発音を聞きたいという指摘もいくらかあった。また，英米のネイティヴ・スピーカーの発音も十分聞き取れないと

きに，varieties の発音の聴取は無理であるという意見も，少数ながらあった。学生は varieties に十分関心を示し，学習に意欲を持ち，知的には十分な動機づけを受けている。しかし発音や聞き取りが未だに初歩の段階にある学生にとっては，いきなり varieties の発音の聴取は荷が重い点があることも考えられる。内容理解を効率的に促進しようとするならば，まず少しでも抵抗のない聞きやすい英語を聞かせることも必要であろうし，発音練習においては，標準的な発音を用いることが望ましいであろう。しかしながら，特に varieties を学習する場合には，筆者の肉声は内容と不可分の関係にあり，これを聞き取ることはきわめて重要である。筆者らは上記の点を考慮して，varieties の録音に加えて英米のネイティブ・スピーカーによる録音を準備したことは前に述べた。実際の授業の場合には，これらの録音テープを準備し，学習者の反応を見ながら教授者の裁量で効果的な学習結果を生むよう，教授者の創意工夫が要求されるところである。

四つの Unit の人気投票では，それぞれアイルランドとガーナを扱ったものが上位２位を占め，ニュージーランド，シンガポールを扱った Unit がこれに続いた。ガーナについては，アフリカに英語圏の国があることが学習者にとっては意外で，印象深かったようである。アイルランドを扱った Unit は，内容的にはアイルランドの英語の状況をアイルランドとイギリスとの関わりをからめて論じたもので，本文の分量も多く，決してやさしいものではなかったが，学生の知的好奇心を刺激したようである。

最後の項目として，「その他」の感想を自由に記述させた箇所では，筆者たちが選択して準備し，授業の開始前に LL 教室に流した音楽（歌）が好評であった。これは，取り上げた国の音楽家たちの演奏の中から，特に人気のあるもの，学生に聞かせたいものを各 Unit ごとにそれぞれ２・３曲厳選して，歌詞とともに提供したものである。

## 5. おわりに

アンケート結果の分析の過程で判明した教科書の受容に関する主な点は以下のとおりである。

1）英語の varieties を学習する重要性は十分に理解された。

2）言語と文化に関する学習者の知的関心が新たに喚起された。

3）書き込みを中心とする教科書の構成やレイアウトはおおむね好評であった。

一方で教科書の改善点や varieties を学習することについての課題も明らかになった。

1）varieties を扱いながらリスニングの力を伸ばす教科書の構成と運用方法を再検討する。

2）本教科書においては，特に Help for Note-Taking や Word List などの内容をさらに改善する。

また，アンケートに現れた，やさしい教材を求める特定の学習者集団の扱いをどうするかは，どのような教科書を用いようと対処せねばならない課題である。上記の課題のうちには，実際に試行教科書として教室で利用し，かつ今回のようなアンケート調査を行ってはじめて問題点の詳細が明らかになる部分があった。より効果的な改善のためには，今回のようなアンケート調査を定期的に実施するとともに，学習者と担当者の日常的なやりとりの中で改善点を指摘し，結果を教科書の編集に反映することが望ましい。通常，教科書は商業ベースに乗って出版されることが前提となっている。しかしながら，このような細部への臨機応変の改訂を可能にするためには，自主教科書の形を貫くか，あるいは出版社に頻繁な改訂を要求できる体制を作らねばならない。加えて今回のように varieties を扱う場合には，varieties を学習する意義を，さらには英語を学ぶ日本人にとっての variety のあり方を，編著者ばかりでなく，教授者，学習者，さらには出版社も十分に自己のものとして認識す

る必要があろう。

さらに，varieties の取り扱いとも関連するが，今後のリスニング教科書の編纂に際して，より基本的な問題として考慮せねばならないのは，国際化と情報化の中における英語教育のあり方である。「オーディオ英語」が開始された当初，約30年前には，欧米の小話や逸話が教材として十分意義を持った。教員ですら研究のための「洋行」が貴重であった時代である。その後の急速な国際化によって，大学入学前後の学習者にとって在外体験はごく身近なものとなっている。また，近年の安価なオーディオ・ビデオ機器とオーディオ・ビジュアルソフトウェアの浸透，また多チャンネル衛星放送番組の充実に代表されるニュース報道や娯楽など国境を越えた番組の提供によって，学習者が国際的なコンテクストの中の英語と英語文化を，質の高い音声と映像で，ほぼリアルタイムに体験できる環境が整ってきた。さらにはコンピュータネットワークを介した情報化の波が押し寄せ，学習者の英語体験は，完全なリアルタイムでのインタラクティブなものへと進展しつつある。実社会へ向けて学生を輩出する大学での英語教育においては，このような国際化と情報化の潮流を無視することはできない。

同志社大学においてもこれらの環境を取り入れて，ビデオを利用した教授，コンピュータ援用英語教育などの科目も試みられている。設備に関して長年改良のなかった LL 教室も，近いうちに最新の設備を投入した CALL (Computer-Assisted Language Learning) ラボとなる構想もある。これまでは不可能であった教授法が可能になることであろうが，それは教授者の自己研鑽と，伝統をふまえつつも新たな時代に対応し新たなコンセプトに基づいて編纂された教科書の開発を伴わねばならないであろう。

大学における英語教育は，このような新たな環境の変化の中でなおかつ大学教育自身の独自性を出せるものでなくてはならない。語学の成就には長い集中した時間が必要であるが，現代のような大量の情報が氾濫する中では，学習者は，何をどのように学ぶべきかという選択にあたって当惑している。

大学での週一回の授業の時間内に学生の語学力を鍛えるばかりではなく，限られた時間的制約の中で，いかに効果的な学習の指針を学習者に与えられるかが課題となろう。大学における英語教育の目的は，日常の用を足すだけのもの，英語国民の日常生活の皮相を把握するだけのものに終わってはならない。しばしば耳にする「実用的」な英語を教授すると称して，きわめて平易な内容の英文を用いた，安直な「総合教材」的な教科書が近年多く出版されている。本来求めるべき教材は，大学における学習者の知的な関心を喚起し，知的要求に十分応えるものでなければならない。これまで英語科が編纂した教科書に見られる，英語国民の文化に本質的な，普遍性を持つ話題，英語国民のものの考え方の根本を解説した記事を教材として扱うことは，大学における英語教育の正しい方向性の一つを示すものであろう。国際化・情報化の影響は避けがたく，学習者の要求，時代の英語教育に対する要求も変化してゆく。その中で大学における英語教育の本質は何かを常に模索するよう，教授者の心構えが問われている。

## 注

1. 正確にはこの科目は，現在学部２年次生科目で実用的な英語力を伸ばす目的の「イングリッシュ・ワークショップ」の中の「リスニング・コース」として提供されている。小論においては，この科目を，通称の「オーディオ英語」として言及する。
2. 当時の状況に関しては，現在にいたるまで視聴覚教室事務室に勤務しておられる牧洋二郎氏から貴重な情報を得た。記して感謝しておきたい。当初，教室は今出川校地弘風館地下１階にあった。教室はその後1967年に若干の改造を経て，1979年に新町校舎に移設された。その後1989年の田辺校地開校時に現在の頌真館３階に移設され，２教室に増設された。
3. 松山信直・小林萬冶・金城盛紀編著 *English through the Ear* 『耳からの英語』，(東京：英宝社，1969), iii.
4. 1996年度現在の履修者は22クラス816名。長い間ほぼ専任のみによって担当されてきた。嘱託講師の担当が本格的に始まったのが，田辺移転後の1989年である。現在の専任率は63%。ちなみに「オーディオ英語」含む，英語科の提供する外国語科

目の平均専任率は約30%である。

5. 現在の設備は，基本的には1967年に一部改造されたシステムをほぼそのまま継承している。

6. *Views and Issues*, iii. また，中村春治，岡田妙，宇田佳正「新聴解教材の編纂にあたって」，『同志社大学英語英文学研究』21 (1979)、132 参照。

7. *Aspects of Britain Today* の編者たちは前書きにおいてそのことを指摘している (*Aspects of Britain Today*, iii。 *Views and Issues* の編著者はこれとは異なった見解を持つ，中村，岡田，宇田 (131)。

8. David Crystal は，*English Language* (London: Penguin Books, 1988) の冒頭において，執筆時点での，英語を母語とする人口を 3 億人，外国語として英語を話す人口を，控えめに算出しても 4 億人と見積もり，外国語としての英語の動向に注目する重要性を論じている（1-2)。

9. Christopher Ricks and Leonard Michels, eds., *The State of the Language: 1990s Edition.* (London: Faber and Faber, 1990). 特に，Sidney Greenbaum, "Whose English", 15-23 参照。日本の研究者が著した varieties の研究書としては，石黒昭博編『世界の英語小事典』（東京：研究社出版，1992）がすぐれている。

10. David Crystal, 7-11.

11. 英語の変容に関する書誌は，『世界の英語小事典』，172-73 を参照。また，Robert McCrum, William Cran and Robert MacNeil, *The Story of English*: (1982; New and Revised Edition, London: Faber and Faber, 1992) は，英語の変遷に関して，広範な解説を加えている。特に Chapter 9: "The New Englishes", Chapter 10: "Next Year's Words" 参照。

12. アンケートの集計分析には Microsoft 社の表計算ソフトウェア Exel (Version 5 for Macintosh) を用いた。回答間の相関関係の分析などは今後の課題である。

13. *Views and Issues* においては，Cumulative Drills で，大量の英文を読み，音読することで，高度な内容の理解をはかりながら聴解力を鍛える工夫がなされている。

# 資料１（総合）

以下の資料において，「はい」「いいえ」の回答には，「はい」を5として，「いいえ」を1とする5段階の評価を要求した。それぞれの項目において，百分率は小数点第一位を四捨五入して算出している。このため，実際の数字の合計は，必ずしも100%にはならない場合がある。総計には便宜的に100%の数字を記入しておいた。

1994年度オーディオクラスアンケート

■あなたについて教えてください

| 問１　学部は？ | 人数 | % |
|---|---|---|
| 神 | 1 | 0% |
| 文 | 78 | 13% |
| 法 | 117 | 20% |
| 経 | 120 | 21% |
| 商 | 119 | 21% |
| 工 | 144 | 25% |
| 総計 | 579 | 100% |

| 問２　性別は？ | | |
|---|---|---|
| 男 | 470 | 81% |
| 女 | 109 | 19% |
| 総計 | 579 | 100% |

| 問３　このクラスでの欠席回数はおよそどのくらいですか | | |
|---|---|---|
| 0 | 113 | 20% |
| 1-2 | 177 | 31% |
| 3-4 | 162 | 28% |
| 5-6 | 76 | 13% |
| 7< | 19 | 3% |
| ? | 29 | 5% |
| 総計 | 576 | 100% |

| 問４　このクラスではまじめに課題に取り組んで学習した | | |
|---|---|---|
| はい | 100 | 18% |
| | 215 | 38% |
| | 184 | 33% |
| | 47 | 8% |
| いいえ | 5 | 1% |
| わからない | 12 | 2% |
| 総計 | 563 | 100% |

■一般的な事柄に関して

問５　このクラスに登録した理由は？第１の理由

| | | |
|---|---|---|
| 1 オーディオ英語を履修したかった | 176 | 36% |
| 2 他の英語のテキストは興味がわかなかった | 10 | 2% |
| 3 英語力がつくと思ったから | 84 | 17% |
| 4 単位が取りやすいと思ったから | 28 | 6% |
| 5 先生がよいと聞いたから | 60 | 12% |
| 6 テキスト（前年度の）がよいと聞いたから | 1 | 0% |
| 7 友人が登録したので | 5 | 1% |
| 8 時間割の都合 | 110 | 22% |
| 9 その他 | 16 | 3% |
| 総計 | 490 | 100% |

問５　このクラスに登録した理由は？第２の理由

| | | |
|---|---|---|
| 1 オーディオ英語を履修したかった | 124 | 21% |

1995年度オーディオクラスアンケート

■あなたについて教えてください

| 問１　学部は？ | | |
|---|---|---|
| 神 | 3 | 1% |
| 文 | 65 | 13% |
| 法 | 111 | 22% |
| 経 | 94 | 18% |
| 商 | 105 | 20% |
| 工 | 136 | 26% |
| 総計 | 514 | 100% |

| 問２　性別は？ | | |
|---|---|---|
| 男 | 386 | 75% |
| 女 | 128 | 25% |
| 総計 | 514 | 100% |

| 問３　このクラスでの欠席回数はおよそどのくらいですか | | |
|---|---|---|
| 0 | 109 | 21% |
| 1-2 | 152 | 30% |
| 3-4 | 143 | 28% |
| 5-6 | 76 | 15% |
| 7< | 15 | 3% |
| ? | 15 | 3% |
| 総計 | 510 | 100% |

| 問４　このクラスではまじめに課題に取り組んで学習した | | |
|---|---|---|
| はい | 88 | 18% |
| | 198 | 40% |
| | 150 | 30% |
| | 42 | 8% |
| いいえ | 9 | 2% |
| わからない | 9 | 2% |
| 総計 | 496 | 100% |

■一般的な事柄に関して

問５　このクラスに登録した理由は？第１の理由

| | | |
|---|---|---|
| 1 オーディオ英語を履修したかった | 122 | 29% |
| 2 他の英語のテキストは興味がわかなかった | 13 | 3% |
| 3 英語力がつくと思ったから | 69 | 16% |
| 4 単位が取りやすいと思ったから | 14 | 3% |
| 5 先生がよいと聞いたから | 54 | 13% |
| 6 テキスト（前年度の）がよいと聞いたから | 0 | 0% |
| 7 友人が登録したので | 9 | 2% |
| 8 時間割の都合 | 119 | 28% |
| 9 その他 | 26 | 6% |
| 総計 | 426 | 100% |

問５　このクラスに登録した理由は？第２の理由

| | | |
|---|---|---|
| 1 オーディオ英語を履修したかった | 100 | 20% |

2 他の英語のテキストは興味がわかなかった
28 5%
3 英語力がつくと思ったから
133 23%
4 単位が取りやすいと思ったから
39 7%
5 先生がよいと聞いたから
87 15%
6 テキスト（前年度の）がよいと聞いたから
2 0%
7 友人が登録したので
18 3%
8 時間割の都合
146 25%
9 その他
14 2%
総計
591 100%

問5：登録の理由・その他
抽選に落ちたので 6
抽選に漏れた 3
興味があった 3
ヒアリングが苦手なので 2
その他（英会話と両立させたかった、ヒアリングを特に勉強したかった、等） 10

問6 オーディオ英語を履修してよかったと思う

はい 167 29%
227 40%
120 21%
21 4%
いいえ 12 2%
わからない 22 4%
総計 569 100%

■テキスト全般に関して
問7 全般にテキストの内容は興味深かった
はい 90 16%
171 30%
213 38%
60 11%
いいえ 25 4%
わからない 9 2%
総計 568 100%

問8 英語の varieties を学ぶという、このテキストの趣旨には賛同できる
はい 182 32%
180 32%
118 21%
43 8%
いいえ 14 2%
わからない 33 6%
総計 570 100%

問9 アメリカ、イギリス以外に英語を使用する国々があることが実感できた
はい 312 55%
169 30%
72 13%
10 2%
いいえ 2 0%
わからない 6 1%
総計 571 100%

問10 英語に関して、また言語に関して理解が深まった
はい 88 15%
194 34%

2 他の英語のテキストは興味がわかなかった
14 3%
3 英語力がつくと思ったから
89 18%
4 単位が取りやすいと思ったから
26 5%
5 先生がよいと聞いたから
59 12%
6 テキスト（前年度の）がよいと聞いたから
1 0%
7 友人が登録したので
30 6%
8 時間割の都合
159 32%
9 その他
12 2%
総計
490 100%

5：登録の理由・その他
抽選に外れた 19
ヒアリングをきたえたかった 5
登録漏れで回された 5
ヒアリングが得意だった 2
その他（色々な英語を聴きたかった、内容に興味があった、等） 3

問6 オーディオ英語を履修してよかったと思う

はい 147 29%
181 36%
113 22%
31 6%
いいえ 13 3%
わからない 20 4%
総計 505 100%

■テキスト全般に関して
問7 全般にテキストの内容は興味深かった
はい 64 13%
156 31%
181 36%
65 13%
いいえ 29 6%
わからない 13 3%
総計 508 100%

問8 英語の varieties を学ぶという、このテキストの趣旨には賛同できる
はい 147 29%
171 34%
101 20%
33 7%
いいえ 23 5%
わからない 32 6%
総計 507 100%

問9 アメリカ、イギリス以外に英語を使用する国々があることが実感できた
はい 286 56%
165 32%
40 8%
4 1%
いいえ 7 1%
わからない 6 1%
総計 508 100%

問10 英語に関して、また言語に関して理解が深まった
はい 76 15%
188 37%

| | | |
|---|---|---|
| | 198 | 35% |
| | 46 | 8% |
| いいえ | 15 | 3% |
| わからない | 30 | 5% |
| 総計 | 571 | 100% |

問 11　テキストの内容から何らかの知的刺激をうけた

| | | |
|---|---|---|
| はい | 74 | 13% |
| | 170 | 30% |
| | 169 | 30% |
| | 91 | 16% |
| いいえ | 36 | 6% |
| わからない | 29 | 5% |
| 総計 | 569 | 100% |

問 12　このテキストで学習したことは将来役立つと思う

| | | |
|---|---|---|
| はい | 62 | 11% |
| | 141 | 25% |
| | 167 | 29% |
| | 79 | 14% |
| いいえ | 29 | 5% |
| わからない | 96 | 17% |
| 総計 | 574 | 100% |

問 13　英語がよく聞けるようになった

| | | |
|---|---|---|
| はい | 29 | 5% |
| | 150 | 26% |
| | 207 | 36% |
| | 86 | 15% |
| いいえ | 46 | 8% |
| わからない | 50 | 9% |
| 総計 | 568 | 100% |

問 14　このテキストで学習した内容は難しかった

| | | |
|---|---|---|
| はい | 49 | 9% |
| | 115 | 20% |
| | 237 | 42% |
| | 114 | 20% |
| いいえ | 40 | 7% |
| わからない | 7 | 1% |
| 総計 | 562 | 100% |

問 15　英語はもっとやさしい方がよい

| | | |
|---|---|---|
| はい | 101 | 18% |
| | 68 | 12% |
| | 171 | 31% |
| | 135 | 24% |
| いいえ | 54 | 10% |
| わからない | 27 | 5% |
| 総計 | 556 | 100% |

問 16　同じような作業が多いので飽きた

| | | |
|---|---|---|
| はい | 83 | 15% |
| | 120 | 22% |
| | 139 | 25% |
| | 133 | 24% |
| いいえ | 64 | 12% |
| わからない | 10 | 2% |
| 総計 | 549 | 100% |

問 17　教材の内容をプリントしたものがほしい

| | | |
|---|---|---|
| はい | 195 | 35% |
| | 89 | 16% |
| | 79 | 14% |
| | 85 | 15% |
| いいえ | 83 | 15% |

| | | |
|---|---|---|
| | 169 | 33% |
| | 47 | 9% |
| いいえ | 13 | 3% |
| わからない | 17 | 3% |
| 総計 | 510 | 100% |

問11　テキストの内容から何らかの知的刺激をうけた

| | | |
|---|---|---|
| はい | 46 | 9% |
| | 162 | 32% |
| | 176 | 35% |
| | 66 | 13% |
| いいえ | 40 | 8% |
| わからない | 17 | 3% |
| 総計 | 507 | 100% |

問12　このテキストで学習したことは将来役立つと思う

| | | |
|---|---|---|
| はい | 43 | 8% |
| | 129 | 25% |
| | 153 | 30% |
| | 80 | 16% |
| いいえ | 33 | 7% |
| わからない | 69 | 14% |
| 総計 | 507 | 100% |

問 13　英語がよく聞けるようになった

| | | |
|---|---|---|
| はい | 37 | 7% |
| | 142 | 28% |
| | 183 | 36% |
| | 75 | 15% |
| いいえ | 39 | 8% |
| わからない | 32 | 6% |
| 総計 | 508 | 100% |

問 14　このテキストで学習した内容は難しかった

| | | |
|---|---|---|
| はい | 61 | 12% |
| | 129 | 25% |
| | 182 | 36% |
| | 94 | 19% |
| いいえ | 32 | 6% |
| わからない | 9 | 2% |
| 総計 | 507 | 100% |

問 15　英語はもっとやさしい方がよい

| | | |
|---|---|---|
| はい | 102 | 20% |
| | 81 | 16% |
| | 157 | 31% |
| | 101 | 20% |
| いいえ | 35 | 7% |
| わからない | 28 | 6% |
| 総計 | 504 | 100% |

問 16　同じような作業が多いので飽きた

| | | |
|---|---|---|
| はい | 78 | 16% |
| | 122 | 24% |
| | 121 | 24% |
| | 102 | 20% |
| いいえ | 66 | 13% |
| わからない | 10 | 2% |
| 総計 | 499 | 100% |

問 17　教材の内容をプリントしたものがほしい

| | | |
|---|---|---|
| はい | 167 | 34% |
| | 66 | 13% |
| | 85 | 17% |
| | 68 | 14% |
| いいえ | 93 | 19% |

| | | |
|---|---|---|
| わからない | 25 | 4% |
| 総計 | 556 | 100% |

問18　教材の内容を録音したテープがほしい

| | | |
|---|---|---|
| はい | 299 | 54% |
| | 111 | 20% |
| | 54 | 10% |
| | 38 | 7% |
| いいえ | 46 | 8% |
| わからない | 8 | 1% |
| 総計 | 556 | 100% |

"問19　18で5, 4（ほしい）と答えた方へ、クラスでの学習の（前に・途中に・後に）ほしい"

| | | |
|---|---|---|
| 前に | 168 | 40% |
| 途中に | 54 | 13% |
| 後に | 198 | 47% |
| 総計 | 420 | 100% |

■テープの聞き取りに関して

問20　聞き取りながらノートをとるのは難しかった

| | | |
|---|---|---|
| はい | 212 | 37% |
| | 199 | 35% |
| | 90 | 16% |
| | 43 | 8% |
| いいえ | 19 | 3% |
| わからない | 3 | 1% |
| 総計 | 566 | 100% |

問21　各国の英語の varieties は聞き取り能力の向上に役に立った

| | | |
|---|---|---|
| はい | 44 | 8% |
| | 142 | 25% |
| | 181 | 32% |
| | 76 | 13% |
| いいえ | 28 | 5% |
| わからない | 96 | 17% |
| 総計 | 567 | 100% |

問22　各国の英語の varieties は聞き取りにくかった

| | | |
|---|---|---|
| はい | 108 | 19% |
| | 179 | 32% |
| | 171 | 30% |
| | 77 | 14% |
| いいえ | 21 | 4% |
| わからない | 12 | 2% |
| 総計 | 568 | 100% |

問23　英米のネイティブスピーカーの発音も聞いてみたい

| | | |
|---|---|---|
| はい | 249 | 44% |
| | 141 | 25% |
| | 108 | 19% |
| | 34 | 6% |
| いいえ | 21 | 4% |
| わからない | 15 | 3% |
| 総計 | 568 | 100% |

■テキストの構成その他について

□"レクチャー（本文）、Vocabulary, Word List, Help for Note-Taking, Exercise, 豆知識・副教材 の分量は多いですか、少ないですか？"

問24　レクチャー（本文）

| | | |
|---|---|---|
| 多い | 45 | 8% |
| | 87 | 15% |

| | | |
|---|---|---|
| わからない | 19 | 4% |
| 総計 | 498 | 100% |

問18　教材の内容を録音したテープがほしい

（95年度は事前に配布したため、該当しない）

"問19　18で5, 4（ほしい）と答えた方へ、クラスでの学習の（前に・途中に・後に）ほしい"

| | | |
|---|---|---|
| 前に | 121 | 50% |
| 途中に | 26 | 11% |
| 後に | 94 | 39% |
| 総計 | 241 | 100% |

■テープの聞き取りに関して

問20　聞き取りながらノートをとるのは難しかった

| | | |
|---|---|---|
| はい | 184 | 36% |
| | 168 | 33% |
| | 75 | 15% |
| | 50 | 10% |
| いいえ | 26 | 5% |
| わからない | 4 | 1% |
| 総計 | 507 | 100% |

問21　各国の英語の varieties は聞き取り能力の向上に役に立った

| | | |
|---|---|---|
| はい | 34 | 7% |
| | 134 | 26% |
| | 172 | 34% |
| | 64 | 13% |
| いいえ | 30 | 6% |
| わからない | 74 | 15% |
| 総計 | 508 | 100% |

問22　各国の英語の varieties は聞き取りにくかった

| | | |
|---|---|---|
| はい | 98 | 19% |
| | 158 | 31% |
| | 140 | 28% |
| | 81 | 16% |
| いいえ | 17 | 3% |
| わからない | 10 | 2% |
| 総計 | 504 | 100% |

問23　英米のネイティブスピーカーの発音も聞いてみたい

| | | |
|---|---|---|
| はい | 192 | 38% |
| | 133 | 26% |
| | 107 | 21% |
| | 35 | 7% |
| いいえ | 31 | 6% |
| わからない | 8 | 2% |
| 総計 | 506 | 100% |

■テキストの構成その他について

□"レクチャー（本文）、Vocabulary, Word List, Help for Note-Taking, Exercise, 豆知識・副教材 の分量は多いですか、少ないですか？"

問24　レクチャー（本文）

| | | |
|---|---|---|
| 多い | 47 | 9% |
| | 96 | 19% |

| | | |
|---|---|---|
| | 386 | 67% |
| | 35 | 6% |
| 少ない | 13 | 2% |
| わからない | 12 | 2% |
| 総計 | 578 | 100% |

問25　Vocabulary

| | | |
|---|---|---|
| 多い | 42 | 7% |
| | 78 | 14% |
| | 372 | 64% |
| | 63 | 11% |
| 少ない | 15 | 3% |
| わからない | 7 | 1% |
| 総計 | 577 | 100% |

問26　Word List

| | | |
|---|---|---|
| 多い | 33 | 6% |
| | 69 | 12% |
| | 365 | 63% |
| | 87 | 15% |
| 少ない | 19 | 3% |
| わからない | 2 | 0% |
| 総計 | 575 | 100% |

問27　Help for Note-Taking

| | | |
|---|---|---|
| 多い | 26 | 5% |
| | 50 | 9% |
| | 362 | 63% |
| | 106 | 18% |
| 少ない | 24 | 4% |
| わからない | 8 | 1% |
| 総計 | 576 | 100% |

問28　Exercise

| | | |
|---|---|---|
| 多い | 31 | 5% |
| | 76 | 13% |
| | 393 | 68% |
| | 50 | 9% |
| 少ない | 17 | 3% |
| わからない | 10 | 2% |
| 総計 | 577 | 100% |

問29　豆知識・副教材

| | | |
|---|---|---|
| 多い | 16 | 3% |
| | 21 | 4% |
| | 268 | 47% |
| | 166 | 29% |
| 少ない | 86 | 15% |
| わからない | 19 | 3% |
| 総計 | 576 | 100% |

□"Vocabulary, Word List, Help for Note-Taking, Exercise, 豆知識・副教材 は内容理解に役立ちましたか？"

問30　Vocabulary

| | | |
|---|---|---|
| はい | 143 | 25% |
| | 208 | 36% |
| | 135 | 23% |
| | 69 | 12% |
| いいえ | 19 | 3% |
| わからない | 3 | 1% |
| 総計 | 577 | 100% |

問31　Word List

| | | |
|---|---|---|
| はい | 166 | 29% |
| | 193 | 33% |
| | 129 | 22% |

| | | |
|---|---|---|
| | 336 | 66% |
| | 19 | 4% |
| 少ない | 5 | 1% |
| わからない | 9 | 2% |
| 総計 | 512 | 100% |

問25　Vocabulary

| | | |
|---|---|---|
| 多い | 25 | 5% |
| | 78 | 15% |
| | 322 | 63% |
| | 71 | 14% |
| 少ない | 13 | 3% |
| わからない | 5 | 1% |
| 総計 | 514 | 100% |

問26　Word List

| | | |
|---|---|---|
| 多い | 31 | 6% |
| | 79 | 15% |
| | 322 | 63% |
| | 64 | 12% |
| 少ない | 11 | 2% |
| わからない | 6 | 1% |
| 総計 | 513 | 100% |

問27　Help for Note-Taking

| | | |
|---|---|---|
| 多い | 17 | 3% |
| | 55 | 11% |
| | 328 | 64% |
| | 84 | 16% |
| 少ない | 24 | 5% |
| わからない | 6 | 1% |
| 総計 | 514 | 100% |

問28　Exercise

| | | |
|---|---|---|
| 多い | 18 | 4% |
| | 65 | 13% |
| | 354 | 69% |
| | 53 | 10% |
| 少ない | 12 | 2% |
| わからない | 11 | 2% |
| 総計 | 513 | 100% |

問29　豆知識・副教材

| | | |
|---|---|---|
| 多い | 14 | 3% |
| | 24 | 5% |
| | 244 | 48% |
| | 141 | 28% |
| 少ない | 64 | 13% |
| わからない | 24 | 5% |
| 総計 | 511 | 100% |

□"Vocabulary, Word List, Help for Note-Taking, Exercise, 豆知識・副教材 は内容理解に役立ちましたか？"

問30　Vocabulary

| | | |
|---|---|---|
| はい | 131 | 26% |
| | 186 | 36% |
| | 129 | 25% |
| | 42 | 8% |
| いいえ | 14 | 3% |
| わからない | 9 | 2% |
| 総計 | 511 | 100% |

問31　Word List

| | | |
|---|---|---|
| はい | 193 | 38% |
| | 190 | 37% |
| | 87 | 17% |

| | | |
|---|---|---|
| | 62 | 11% |
| いいえ | 24 | 4% |
| わからない | 3 | 1% |
| 総計 | 577 | 100% |

問32　Help for Note-Taking

| | | |
|---|---|---|
| はい | 240 | 42% |
| | 190 | 33% |
| | 104 | 18% |
| | 26 | 5% |
| いいえ | 14 | 2% |
| わからない | 3 | 1% |
| 総計 | 577 | 100% |

問33　Exercise

| | | |
|---|---|---|
| はい | 87 | 15% |
| | 181 | 31% |
| | 203 | 35% |
| | 77 | 13% |
| いいえ | 24 | 4% |
| わからない | 5 | 1% |
| 総計 | 577 | 100% |

問34　豆知識・副教材

| | | |
|---|---|---|
| はい | 72 | 12% |
| | 110 | 19% |
| | 222 | 38% |
| | 95 | 16% |
| いいえ | 55 | 10% |
| わからない | 23 | 4% |
| 総計 | 577 | 100% |

□Vocabulary, Word List, Help for Note-Taking, 豆知識・副教材 は聞き取りに役立ちましたか？

問35　Vocabulary

| | | |
|---|---|---|
| はい | 134 | 23% |
| | 162 | 28% |
| | 165 | 29% |
| | 75 | 13% |
| いいえ | 31 | 5% |
| わからない | 7 | 1% |
| 総計 | 574 | 100% |

問36　Word List

| | | |
|---|---|---|
| はい | 256 | 45% |
| | 193 | 34% |
| | 81 | 14% |
| | 30 | 5% |
| いいえ | 10 | 2% |
| わからない | 4 | 1% |
| 総計 | 574 | 100% |

問37　Help for Note-Taking

| | | |
|---|---|---|
| はい | 227 | 40% |
| | 184 | 32% |
| | 114 | 20% |
| | 32 | 6% |
| いいえ | 13 | 2% |
| わからない | 4 | 1% |
| 総計 | 574 | 100% |

問38　豆知識・副教材

| | | |
|---|---|---|
| はい | 31 | 5% |
| | 41 | 7% |
| | 190 | 33% |
| | 162 | 28% |

| | | |
|---|---|---|
| | 30 | 6% |
| いいえ | 7 | 1% |
| わからない | 4 | 1% |
| 総計 | 511 | 100% |

問32　Help for Note-Taking

| | | |
|---|---|---|
| はい | 212 | 41% |
| | 180 | 35% |
| | 88 | 17% |
| | 19 | 4% |
| いいえ | 9 | 2% |
| わからない | 3 | 1% |
| 総計 | 511 | 100% |

問33　Exercise

| | | |
|---|---|---|
| はい | 89 | 17% |
| | 166 | 32% |
| | 167 | 33% |
| | 56 | 11% |
| いいえ | 26 | 5% |
| わからない | 7 | 1% |
| 総計 | 511 | 100% |

問34　豆知識・副教材

| | | |
|---|---|---|
| はい | 83 | 16% |
| | 111 | 22% |
| | 158 | 31% |
| | 93 | 18% |
| いいえ | 44 | 9% |
| わからない | 22 | 4% |
| 総計 | 511 | 100% |

□ Vocabulary, Word List, Help for Note-Taking, 豆知識・副教材 は聞き取りに役立ちましたか？

問35　Vocabulary

| | | |
|---|---|---|
| はい | 145 | 28% |
| | 154 | 30% |
| | 135 | 26% |
| | 45 | 9% |
| いいえ | 26 | 5% |
| わからない | 5 | 1% |
| 総計 | 510 | 100% |

問36　Word List

| | | |
|---|---|---|
| はい | 295 | 58% |
| | 135 | 26% |
| | 54 | 11% |
| | 14 | 3% |
| いいえ | 10 | 2% |
| わからない | 2 | 0% |
| 総計 | 510 | 100% |

問37　Help for Note-Taking

| | | |
|---|---|---|
| はい | 230 | 45% |
| | 164 | 32% |
| | 89 | 17% |
| | 18 | 4% |
| いいえ | 6 | 1% |
| わからない | 3 | 1% |
| 総計 | 510 | 100% |

問38　豆知識・副教材

| | | |
|---|---|---|
| はい | 23 | 5% |
| | 41 | 8% |
| | 144 | 28% |
| | 156 | 31% |

| | | |
|---|---|---|
| いいえ | 124 | 22% |
| わからない | 26 | 5% |
| 総計 | 574 | 100% |

問39　このテキストで特によかったと思う点をあげてください

Varieties について
英語の varieties を扱った点がよかった　92
(英語に多くの種類があることがわかった　10)
(イギリス・アメリカの英語だけが英語ではないことがよく分かった　5)
(その他（日本人としての英語の variety に誇りを持てるようになった、等）　3)

言語・文化について
今まで知らなかった英語使用国の言語や文化について知ることができた　25
その他（世界各地に取材していること、意思伝達を目標にした英語を学ぶことができた、等）　4

教科書の構成について
Help for Note Taking がよかった、役に立った　48
Word List がよかった、役に立った　38
豆知識がよかった、役に立った　18
書き込みスペースが十分にあった　16
Vocabulary がよかった、役に立った　7
書き込み式のテキストがよかった　6
Exercise がよかった、役に立った　4
レイアウト・構成がよい　4
読みやすい、わかりやすい　4
その他（UNIT に分かれていて学習しやすい、授業ごとに読みきりになっていたのがよかった、英語の説明がよかった、等）　21

教科書の内容について
内容がよい、すぐれている　22
その他　10

聞き取りに関して
聞き取り学習に集中できた、その場で真剣に聴く必要があったのがよかった　10
その他（聞き取り能力が向上した、英米のネイティブスピーカーでなかったのがよかった、等）　6

その他
学習量が適切、など　7

問40　このテキストで特に改善すべきと思う点をあげてください

教科書の構成に関して
Word List の改善を　44
(Word List のスペースを多くする　16)
(Word List の量を増やす　13)
(Word List が中途半端　10)
(Word List を少な目に　3)
Help for Note-Taking の改善を　31

| | | |
|---|---|---|
| いいえ | 125 | 25% |
| わからない | 20 | 4% |
| 総計 | 509 | 100% |

問39　このテキストで特によかったと思う点をあげてください

Varieties について
英語の varieties を知った / 聞けた　86
(英米の英語だけではないということを知った　7)
(英語をあらゆる観点から見ることができた　4)
(それぞれの国の歴史背景からくる言語の変化などを知った　2)
その他（世界中で英語が話されていることが実感できた、等）

言語・文化について
今まで知らなかった英語使用国の言語や文化について知ることができた　47
その他（文化というものについて考えさせられた、等）　2

教科書の構成について
Word List がよかった、役に立った　48
Help for Note-Taking がよかった、役に立った　36
書き込み式のテキストがよかった、役に立った　21
豆知識に書いてあることがよかった・面白かった　17
Word List + Help for Note-Taking の組み合わせがよかった　8
Vocabulary の英語の説明がよい　6
区切りがよい　6
その他（まとまっていた、Exercise がわかりやすい、段階的に学べる、等）　9

教科書の内容に関して
内容がよい、すぐれている　27
文章の難易度がちょうどよい　14
比較的わかりやすかった　8
分量がちょうどよい　4
その他（今まで学習したことのない題材だった、ケルト・アイルランドが取り上げられていた、等）　11

聞き取りに関して
リスニング能力が向上した　5
本文がないので何度も聴くことになってよかった　3
英語を聞き取って書く力が付いた　2
その他　4

その他
写真が多い、全体的に学べる、等　4

問40　このテキストで特に改善すべきと思う点をあげてください

教科書の構成に関して
Help for Note-Taking の改善を　78
(書き取りのスペースが少ない　10)
(内容の難易に応じて分量を調節する　9)
Word List の改善を　26
(Word List を少な目に　19)
Exercise の改善を　15

(わかりやすく構成する、充実させる、分量を少なく、等)
豆知識をもっと多く 8
Vocabularyの改善を 3
その他(穴埋めの単語の数がわかるようにする、等) 6

内容に関して
単語が難しい 8
英米の varieties も聞きたい 8
難しい 7
本文を増やす 5
分量が多い 4
話のスタイルが似ている 3
その他(アメリカ英語の方がよい、等) 4

聞き取り・録音・音声に関して
録音テープがほしい 15
テープの英語を聞き取りやすく、音声をはっきり 10
英米のネイティブの発音も聴きたい 8
聞き取りの分量が多い 3
その他(全文の書き取りが難しい、等) 4

授業運営に関して
本文のテキストがほしい 30
その他(予習がしにくい、単調だった、等) 5

その他
本のサイズが大きすぎる 20
試験勉強がしにくい 4
教科書の価格が高い 3
解答がほしい 3
書くことが多すぎる 2
図版を多く 2
Exercise の解答に曖昧な箇所がある、読みにゆっくり読む回をもうける、スピーキングが上達しない、等 24

問41 特におもしろかった UNIT があればそのタイトル(ないしは内容)をあげて下さい

Ireland 81
Ghana 71
New Zealand 57
Singapore 47

(問)その他
音楽がよかった 7
昼休みにテープを聴きたかった2
もっと原文を流してほしかった2
その他(もっとビデオを見たい、授業に緊張感があった、スラングなども学習したい、等) 14

日本語の説明を多くほしい 11
豆知識をもっと載せてほしい 8
その他(空所補充の空所が長すぎる、内容理解のためにもっと関数を、等) 13

内容に関して
英米語の varieties も聞きたい 10
英米の標準的な英語の聞き取りができていない状態でのその他の varieties は聞き取れない 8
歴史的な具体例・英語の拡がりなどもっと載せてほしい 7
現地の人の日常生活などに深く入った内容もほしかった 6
各章を短くしてたくさんの国を取りあげてほしい 5
内容も単語も難しい箇所があった 4
聞き取りは難しいので内容をやさしく 4
その他(内容重視にするかリスニング重視にするかどちらかにすべき、等) 8

聞き取り・録音・音声に関して
録音テープが聞き取れない 7
その他(UNITを進むにつれてテープを速くするとよい、等) 2

授業運営に関して
本文のスクリプトが欲しい 21
パターン化してしまう 6
その他(細部にとらわれずに全体の内容把握を、等) 3

その他
量が多い 3
聞き逃すとわからない 2
Exerciseの解答がほしい、日常会話の聞き取りを加えてほしい、等 8

問41 特におもしろかった UNIT があればそのタイトル(ないしは内容)をあげて下さい

Ghana 84
Ireland 69
New Zealand 64
Singapore 60
Appendix Utah 14

(問)その他
音楽がよかった 2
ビデオがよかった 2
その他(英語の成り立ちがわかった、発音の違いや地方独特の言葉がよかった、学生の英語のレベルの違いが問題、音楽がよかった、等) 6

# 資料２-1（男・女）

94男

| | 問4 | 問6 | 問7 | 問8 | 問9 | 問10 | 問11 | 問12 | 問13 | 問14 | 問15 | 問16 | 問17 | 問18 | 問19 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 16% | 28% | 14% | 30% | 53% | 14% | 12% | 9% | 5% | 10% | 20% | 16% | 36% | 52% | 0% |
| 4 | 39% | 42% | 30% | 32% | 30% | 33% | 30% | 25% | 25% | 21% | 13% | 22% | 16% | 22% | 0% |
| 3 | 33% | 21% | 38% | 21% | 13% | 36% | 29% | 29% | 37% | 40% | 31% | 25% | 14% | 10% | 49% |
| 2 | 9% | 3% | 11% | 8% | 2% | 9% | 17% | 14% | 15% | 20% | 23% | 23% | 15% | 7% | 13% |
| 1 | 1% | 2% | 5% | 3% | 0% | 3% | 7% | 6% | 9% | 7% | 8% | 12% | 14% | 8% | 38% |
| 0 | 3% | 4% | 2% | 6% | 1% | 5% | 5% | 16% | 8% | 2% | 5% | 2% | 5% | 2% | 0% |
| | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% |

94女

| | 問4 | 問6 | 問7 | 問8 | 問9 | 問10 | 問11 | 問12 | 問13 | 問14 | 問15 | 問16 | 問17 | 問18 | 問19 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 27% | 37% | 23% | 40% | 62% | 21% | 19% | 17% | 7% | 2% | 9% | 12% | 31% | 63% | 0% |
| 4 | 37% | 32% | 32% | 31% | 27% | 36% | 31% | 23% | 32% | 18% | 7% | 23% | 16% | 13% | 0% |
| 3 | 31% | 21% | 37% | 19% | 9% | 31% | 31% | 29% | 34% | 51% | 31% | 28% | 17% | 10% | 39% |
| 2 | 6% | 4% | 7% | 4% | 2% | 6% | 10% | 11% | 14% | 20% | 30% | 28% | 16% | 6% | 14% |
| 1 | 0% | 1% | 0% | 1% | 0% | 0% | 3% | 1% | 3% | 9% | 17% | 8% | 18% | 10% | 47% |
| 0 | 0% | 5% | 0% | 6% | 0% | 7% | 6% | 19% | 11% | 0% | 6% | 0% | 3% | 0% | 0% |
| | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% |

95男

| | 問4 | 問6 | 問7 | 問8 | 問9 | 問10 | 問11 | 問12 | 問13 | 問14 | 問15 | 問16 | 問17 | 問18 | 問19 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 15% | 29% | 13% | 28% | 54% | 14% | 9% | 9% | 7% | 13% | 23% | 17% | 33% | | 0% |
| 4 | 39% | 34% | 29% | 31% | 34% | 34% | 30% | 25% | 29% | 24% | 16% | 26% | 13% | | 0% |
| 3 | 31% | 23% | 35% | 21% | 8% | 36% | 36% | 29% | 35% | 36% | 31% | 24% | 19% | | 51% |
| 2 | 11% | 7% | 14% | 6% | 1% | 10% | 13% | 18% | 16% | 19% | 18% | 18% | 12% | | 12% |
| 1 | 2% | 3% | 7% | 6% | 2% | 3% | 9% | 7% | 7% | 7% | 6% | 13% | 19% | | 37% |
| 0 | 2% | 4% | 3% | 7% | 1% | 3% | 2% | 13% | 5% | 2% | 6% | 3% | 4% | | 0% |
| | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | | 100% |

95女

| | 問4 | 問6 | 問7 | 問8 | 問9 | 問10 | 問11 | 問12 | 問13 | 問14 | 問15 | 問16 | 問17 | 問18 | 問19 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 26% | 31% | 12% | 32% | 64% | 18% | 9% | 8% | 7% | 9% | 11% | 13% | 35% | | 0% |
| 4 | 42% | 42% | 35% | 42% | 28% | 47% | 37% | 28% | 25% | 30% | 17% | 20% | 15% | | 0% |
| 3 | 27% | 20% | 37% | 16% | 7% | 23% | 30% | 33% | 40% | 36% | 31% | 24% | 11% | | 47% |
| 2 | 2% | 5% | 10% | 7% | 0% | 7% | 13% | 10% | 10% | 18% | 27% | 29% | 18% | | 8% |
| 1 | 1% | 1% | 3% | 0% | 0% | 2% | 6% | 6% | 9% | 6% | 10% | 14% | 19% | | 45% |
| 0 | 0% | 2% | 2% | 3% | 1% | 3% | 6% | 16% | 9% | 2% | 4% | 0% | 3% | | 0% |
| | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | | 100% |

94 男

| | 問 20 | 問 21 | 問 22 | 問 23 | 問 24 | 問 25 | 問 26 | 問 27 | 問 28 | 問 29 | 問 30 | 問 31 | 問 32 | 問 33 | 問 34 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 39% | 7% | 19% | 41% | 8% | 8% | 6% | 5% | 6% | 3% | 23% | 27% | 40% | 14% | 11% |
| 4 | 36% | 25% | 32% | 26% | 14% | 13% | 12% | 9% | 13% | 3% | 36% | 33% | 33% | 32% | 19% |
| 3 | 14% | 32% | 30% | 20% | 67% | 64% | 62% | 63% | 68% | 46% | 25% | 24% | 18% | 36% | 38% |
| 2 | 7% | 14% | 13% | 7% | 7% | 10% | 16% | 18% | 9% | 29% | 13% | 11% | 5% | 12% | 16% |
| 1 | 3% | 6% | 4% | 4% | 2% | 3% | 3% | 4% | 3% | 15% | 4% | 4% | 3% | 4% | 11% |
| 0 | 1% | 17% | 2% | 2% | 2% | 1% | 0% | 1% | 2% | 3% | 1% | 1% | 1% | 1% | 4% |
| | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% |

94 女

| | 問 20 | 問 21 | 問 22 | 問 23 | 問 24 | 問 25 | 問 26 | 問 27 | 問 28 | 問 29 | 問 30 | 問 31 | 問 32 | 問 33 | 問 34 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 28% | 12% | 20% | 57% | 8% | 2% | 5% | 2% | 3% | 2% | 34% | 38% | 48% | 19% | 17% |
| 4 | 33% | 27% | 28% | 22% | 18% | 14% | 11% | 9% | 15% | 5% | 39% | 38% | 34% | 30% | 19% |
| 3 | 24% | 30% | 31% | 14% | 66% | 66% | 68% | 62% | 69% | 50% | 18% | 15% | 17% | 31% | 39% |
| 2 | 11% | 9% | 17% | 3% | 3% | 14% | 13% | 19% | 9% | 28% | 8% | 8% | 2% | 17% | 19% |
| 1 | 5% | 2% | 3% | 1% | 2% | 3% | 3% | 4% | 3% | 13% | 1% | 2% | 0% | 3% | 3% |
| 0 | 0% | 19% | 1% | 4% | 3% | 2% | 1% | 4% | 2% | 3% | 0% | 0% | 0% | 0% | 2% |
| | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% |

95 男

| | 問 20 | 問 21 | 問 22 | 問 23 | 問 24 | 問 25 | 問 26 | 問 27 | 問 28 | 問 29 | 問 30 | 問 31 | 問 32 | 問 33 | 問 34 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 41% | 6% | 20% | 37% | 8% | 5% | 7% | 4% | 4% | 3% | 23% | 35% | 41% | 17% | 16% |
| 4 | 32% | 27% | 30% | 25% | 19% | 17% | 15% | 12% | 14% | 5% | 37% | 36% | 34% | 30% | 22% |
| 3 | 15% | 32% | 28% | 23% | 65% | 59% | 62% | 61% | 67% | 46% | 26% | 18% | 18% | 34% | 29% |
| 2 | 7% | 12% | 17% | 7% | 5% | 15% | 12% | 16% | 10% | 27% | 9% | 8% | 4% | 13% | 19% |
| 1 | 4% | 6% | 3% | 6% | 1% | 3% | 2% | 6% | 3% | 14% | 4% | 2% | 2% | 5% | 10% |
| 0 | 1% | 16% | 3% | 2% | 2% | 1% | 2% | 2% | 2% | 5% | 2% | 1% | 1% | 2% | 4% |
| | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% |

95 女

| | 問 20 | 問 21 | 問 22 | 問 23 | 問 24 | 問 25 | 問 26 | 問 27 | 問 28 | 問 29 | 問 30 | 問 31 | 問 32 | 問 33 | 問 34 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 22% | 9% | 19% | 41% | 13% | 3% | 3% | 1% | 2% | 2% | 34% | 45% | 44% | 19% | 18% |
| 4 | 35% | 24% | 35% | 29% | 17% | 11% | 16% | 8% | 8% | 2% | 36% | 40% | 40% | 40% | 21% |
| 3 | 15% | 39% | 29% | 17% | 69% | 73% | 66% | 73% | 76% | 52% | 22% | 14% | 14% | 30% | 38% |
| 2 | 18% | 13% | 13% | 8% | 1% | 12% | 13% | 16% | 11% | 30% | 6% | 1% | 2% | 5% | 16% |
| 1 | 9% | 6% | 4% | 6% | 0% | 1% | 2% | 2% | 2% | 9% | 0% | 0% | 1% | 6% | 3% |
| 0 | 1% | 10% | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% | 0% | 2% | 5% | 2% | 0% | 0% | 1% | 4% |
| | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% |

94男

| | 問35 | 問36 | 問37 | 問38 |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 19% | 41% | 36% | 5% |
| 4 | 27% | 36% | 33% | 6% |
| 3 | 32% | 15% | 22% | 34% |
| 2 | 14% | 6% | 6% | 28% |
| 1 | 7% | 2% | 3% | 23% |
| 0 | 1% | 0% | 1% | 4% |
| | 100% | 100% | 100% | 100% |

94女

| | 問35 | 問36 | 問37 | 問38 |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 40% | 59% | 55% | 7% |
| 4 | 33% | 25% | 28% | 11% |
| 3 | 15% | 10% | 11% | 29% |
| 2 | 9% | 4% | 5% | 30% |
| 1 | 0% | 0% | 0% | 17% |
| 0 | 3% | 3% | 1% | 6% |
| | 100% | 100% | 100% | 100% |

95男

| | 問35 | 問36 | 問37 | 問38 |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 25% | 55% | 42% | 4% |
| 4 | 31% | 28% | 32% | 8% |
| 3 | 26% | 12% | 20% | 28% |
| 2 | 10% | 3% | 4% | 29% |
| 1 | 6% | 3% | 2% | 27% |
| 0 | 1% | 1% | 1% | 4% |
| | 100% | 100% | 100% | 100% |

95女

| | 問35 | 問36 | 問37 | 問38 |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 39% | 67% | 55% | 5% |
| 4 | 28% | 23% | 32% | 8% |
| 3 | 28% | 7% | 11% | 30% |
| 2 | 5% | 3% | 2% | 35% |
| 1 | 2% | 0% | 0% | 17% |
| 0 | 0% | 0% | 0% | 5% |
| | 100% | 100% | 100% | 100% |

## 資料２-2（男・女）

94年男

| | 問5第一理由 | 問5第二理由 | 94男問5総合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 34% | 20% | 27% |
| 2 | 2% | 4% | 3% |
| 3 | 17% | 22% | 20% |
| 4 | 7% | 7% | 7% |
| 5 | 12% | 13% | 13% |
| 6 | 0% | 0% | 0% |
| 7 | 1% | 3% | 3% |
| 8 | 23% | 25% | 25% |
| 9 | 3% | 2% | 3% |
| | 100% | 100% | 100% |

94年女

| | 問5第一理由 | 問5第二理由 | 94女問5総合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 43% | 24% | 33% |
| 2 | 2% | 7% | 5% |
| 3 | 18% | 24% | 23% |
| 4 | 1% | 2% | 1% |
| 5 | 13% | 18% | 16% |
| 6 | 0% | 0% | 0% |
| 7 | 0% | 1% | 0% |
| 8 | 19% | 18% | 19% |
| 9 | 3% | 2% | 2% |
| | 100% | 100% | 100% |

95年男

| | 問5第一理由 | 問5第二理由 | 95男問5総合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 27% | 19% | 23% |
| 2 | 3% | 2% | 3% |
| 3 | 15% | 18% | 17% |
| 4 | 4% | 6% | 5% |
| 5 | 15% | 14% | 14% |
| 6 | 0% | 0% | 0% |
| 7 | 3% | 6% | 4% |
| 8 | 28% | 32% | 30% |
| 9 | 5% | 2% | 4% |
| | 100% | 100% | 100% |

95年女

| | 問5第一理由 | 問5第二理由 | 95女問5総合 |
|---|---|---|---|
| 1 | 34% | 24% | 29% |
| 2 | 2% | 6% | 4% |
| 3 | 20% | 19% | 20% |
| 4 | 2% | 3% | 2% |
| 5 | 3% | 7% | 5% |
| 6 | 0% | 1% | 0% |
| 7 | 0% | 6% | 3% |
| 8 | 31% | 32% | 32% |
| 9 | 8% | 3% | 5% |
| | 100% | 100% | 100% |

# 資料3（工学部・他学部）

94年工学部

| | 問5第一希望 | | 問5第二希望 | | 工学部総合 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 32 | 26% | 30 | 20% | 61 | 23% |
| 2 | 2 | 2% | 7 | 5% | 9 | 3% |
| 3 | 20 | 17% | 32 | 22% | 52 | 19% |
| 4 | 10 | 8% | 10 | 7% | 20 | 7% |
| 5 | 10 | 8% | 22 | 15% | 32 | 12% |
| 6 | 0 | 0% | 1 | 1% | 1 | 0% |
| 7 | 3 | 2% | 3 | 2% | 6 | 2% |
| 8 | 42 | 35% | 39 | 27% | 81 | 30% |
| 9 | 3 | 2% | 3 | 2% | 6 | 2% |
| | 122 | 100% | 147 | 100% | 268 | 100% |

94年他学部

| | 問5第一希望 | | 問5第二希望 | | 他学部総合 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 144 | 39% | 94 | 21% | 237 | 29% |
| 2 | 8 | 2% | 21 | 5% | 29 | 4% |
| 3 | 64 | 17% | 101 | 23% | 165 | 20% |
| 4 | 18 | 5% | 29 | 7% | 47 | 6% |
| 5 | 50 | 14% | 65 | 15% | 115 | 14% |
| 6 | 1 | 0% | 1 | 0% | 2 | 0% |
| 6 | 2 | 1% | 15 | 3% | 17 | 2% |
| 7 | 68 | 19% | 107 | 24% | 175 | 22% |
| 8 | 13 | 4% | 11 | 2% | 24 | 3% |
| | 368 | 100% | 444 | 100% | 811 | 100% |

95年工学部

| | 問5第一希望 | | 問5第二希望 | | 94年工学部総合 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 29 | 25% | 24 | 19% | 53 | 22% |
| 2 | 3 | 3% | 5 | 4% | 8 | 3% |
| 3 | 20 | 17% | 16 | 13% | 36 | 15% |
| 4 | 5 | 4% | 6 | 5% | 11 | 5% |
| 5 | 13 | 11% | 18 | 14% | 31 | 13% |
| 6 | 0 | 0% | 0 | 0% | 0 | 0% |
| 7 | 0 | 0% | 12 | 10% | 12 | 5% |
| 8 | 39 | 33% | 40 | 32% | 79 | 33% |
| 9 | 8 | 7% | 5 | 4% | 13 | 5% |
| | 117 | 100% | 126 | 100% | 243 | 100% |

95年他学部

| 問5第一希望 | | 問5第二希望 | | 95年他学部総合 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 93 | 30% | 76 | 21% | 169 | 25% |
| 10 | 3% | 9 | 2% | 19 | 3% |
| 49 | 16% | 73 | 20% | 122 | 18% |
| 9 | 3% | 20 | 5% | 29 | 4% |
| 41 | 13% | 41 | 11% | 82 | 12% |
| 0 | 0% | 1 | 0% | 1 | 0% |
| 9 | 3% | 18 | 5% | 27 | 4% |
| 80 | 26% | 119 | 33% | 199 | 30% |
| 18 | 6% | 7 | 2% | 25 | 4% |
| 309 | 100% | 364 | 100% | 673 | 100% |

## Synopsis

# Editing *From English to Englishes* and English Listening Comprehension Course at Doshisha University

Haruo Nishinoh, Tae Yamamoto, Tetsuya Taguchi

For over twenty-five years, the English listening comprehension course (called Audio-English) at Doshisha University has been conducted using the course materials edited by the teaching staff of Doshisha. The writers of the present paper collaborated to edit the eighth (and latest) textbook, which has been used in the Audio-English course in English D (non-English major sophomore course) of Doshisha University since the school year 1994, and surveyed the the students who used the textbook for their opinions on it at the end of the 1994 and 1995 school years. The aim of the present paper is, firstly, to reconsider the course that Audio-English has followed since its inception, through reviewing the textbooks edited and used throughout the period, secondly, to examine the results of the surveys done in 1994 and 1995 to find out students' reaction to the textbook currently used, and what possible agendas could be for the Audio-English course in the future.

The Audio-English course of Doshisha was launched in 1962, as one of the earliest examples of language teaching using language laboratory apparatus. The first textbook edited by the teaching staff of Doshisha was published in 1969. So far, the following textbooks has been edited and published:

1. Matsuyama, Kobayashi, Kinjo (eds.), *English through the Ear*. Eiho-sha, 1969.
2. Homma, Fukumoto, Kamaike (eds. ), *Aural English for College Students*. Eiho-sha, 1972.

3. Atsumi, Oku, Takino (eds.), *Listening to English*. Eiho-sha, 1975.
4. Nakamura, Okada, Uda (eds.), *Views and Issues: Four Lectures for Listening Comprehension*. Eicho-sha Shin-sha, 1977.
5. Arima, K. Kitao, K. Kitao, Yoshioka (eds.), *Enjoying America through the Ear*. Eiho-sha, 1984.
6. Matsui, Noguchi, Sugino (eds.), *Aspects of Britain Today: For Listening Comprehension*. Eicho-sha Shin-sha, 1988.
7. Engetsu, Minai, Oshimoto, Saijo (eds.), *A Guide to Taking Note: Life in Britain and in America*, Eiho-sha, 1990.
8. Nishinoh, Yamamoto, Taguchi (eds.), *From English to Englishes: Drills for Listening Comprehension*. Eiho-sha, 1994.

A review of these textbooks reveals a certain trend of editorial principles. Each set of editors, taking over the editing policies of preceding books, modified them by adding new elements.

Textbooks 1-3 have approximately the same structure; they comprise 20-22 collected short stories, or anecdotes, each followed by exercises to check the students' grasp of the content. Textbook 4 is a departure from this pattern in several points. Instead of short stories and anecdotes, four lectures on current issues in English speaking countries, delivered by native speakers and taped at Doshisha laboratory, are adopted as the material for listening comprehension. The lectures are comparatively long (about ten to fifteen minutes) and difficult, so it is intended that each chapter (lecture) be covered over a period of several weeks (one class meeting a week). Also, in order to help the students understand the lectures, various kinds of "listening aids" are provided for each lecture. It is often pointed out that there is a wide gap between Japanese students' listening comprehension and their reading ability or their intellectual faculty, but the editors of this textbook make it clear that, even for listening comprehension, the teaching materials should be intellectual enough to match the level of intellect of college students

and to stimulate their interest. This attitude, together with the structure and the pattern used in textbook 4, is continued by the editors of the succeeding textbooks. Textbooks 5 and 6 consist, respectively, of lectures on various aspects of the society and culture of the United States and of Britain. Though the aids and practices given in each chapter vary, both books follow the basic pattern of textbook 4. The editors of textbook 7 give the course of text editing another turn, as they put emphasis on note-taking. Instead of amplifying aids such as word lists, exercises and practices, they concentrate on encouraging the students to take notes while listening to the lecture, providing the charts and formats.

Textbook 8 also adopts the structure and patterns used in preceding books, with slight modification: its novelty lies in its collection of listening materials. In this textbook, the editors focus on varieties of English spoken in various countries, with the aim of introducing students to the aspects of "Englishes" used currently around the world, and bringing the fact home to them that there is no invariant, standard language called "the English" but there are various "Englishes", alive and changing daily. Accordingly, the book consists of the lectures on the language and the society of Ghana, Singapore, New Zealand, and Ireland, delivered by the speakers of those countries. The surveys in 1994 and 1995 were made mainly on the following points: 1) how the students responded to varieties of English as the material of language learning, 2) how they assessed the style and the structure of the book, and what improvements they wanted.

The number of relevant responses collected from the students amounted to 579 in 1994 and 514 in 1995. The two years' surveys show striking similarities, with a few points that deserve attention: reasons for choosing the course, response to the textbook and suggestions for improvement of style and construction of the textbook.

Reasons for choosing the course are quite similar in both years. The first reason is that they wished to take the Audio-English course. the second was that they had to

take the class due to the tightness of their class schedule, the third is that they intended to brush up their listening comprehension skills, and the fourth reason is that they liked the teacher. Tightness of class schedule is an impending problem among the Engineering major students, for it is their first reason in 1994 (35%, Cf. 19% in other majors) and in 1995 (33%, Cf. 26% in other majors). Thus it underlines the fact that Engineering students suffer from the tightest schedules.

Students' reactions to the textbook are generally fairly good. They show strong interest in the content of the lectures, agree with the importance of learning varieties of English, and confess that through the textbook they first became conscious of the fact that there are English-speaking countries other than US and Britain. Also, a write-in section of the survey shows that students found intellectual stimuli and joy in discovering the importance that English language plays in international situations, and the prevalence of English in the world.

In contrast to the relatively favorable response to the content of the textbook, however, not many students felt that they became able to listen English better. Of course this is partly due to infrequent class meetings (one session a week), and the lack and insufficiency of listening facilities, but, as we pointed out earlier, this may also be partly due to the difficulty of the lecture itself, which some students mention in the write-in section. Whether to use relatively easy text with ample listening materials or to use relatively difficult and "audible" text and stress in comprehending the content of the text itself, is a difficlt question. In order to improve the students' listening comprehension skills we could provide more listening materials as the editors of *Views and Issues* did.

There is a large body of students who find listening comprehension particularly difficult. The majority of the body consists of male students (male 33%, female 20% in 1994; male 39%, female 28% in 1995), thus forming a peculiar distribution in this particular query (No. 15). How to handle this body of students remains an issue to be

solved. Similar gender difference appears in the reception of the note-taking method. Although many students are in favor of this method, approximately 70% of the students feel that note-taking is difficult. Again, the majority of this body consists of male students (male 75%, female 61% in 1994; male 73% female 57% in 1995). Related to this response is the reception of listening aids; Vocabulary and Word List. More than10% fewer male students feel that these are helpful in comprehension. Overall results show that female students are more willing and industrious, and made more use of the textbook.

One of the crucial problems in listening to varieties of English is posed by several students in the write-in section of the survey. They express their wish to listen to "textbook" examples of the pronunciation of American or British speakers. It can be argued that when students are not able to comprehend "standard" English, they may find it more difficult to listen to varieties of English. The editors expected this problem and provided recordings by American and British speakers together with the original recordings. Since listening to the original pronunciation with its intonation and accent, is essential for fuller understanding of varieties of English, it is desirable that alternate pronunciation should be used carefully with the teacher's discretion.

In summarizing the surveys, the following points are made clear:

1) Students have understood the significance of learning English varieties.

2) Students have recieved new intellectual stimuli concerning language and culture.

3) Students found the styles and construction of the textbook generally helpful.

On the other hand, however, points of improvement have also been made apparent:

1) Re-examination of styles and construction of the textbook is necessary in order to help students' listening comprehension skills, while dealing with English varieties.

2) With this textbook, improvement of such sections like Help for Note-Taking and Word List is necessary.

Looking back at the heritage of the Audio-English course, the editors have realized that it has played quite an important role in the history of English teaching at Doshisha. Despite the advent of an information intensive society, with its multi-channel satellite broadcasting and computer networking, the basic principles set for Audio-English will remain unchanged. However, educators are asked to be ever alert to societal and technological change and to re-examine teaching methods and materials with hitherto unprecedented scale and speed.